

NEWSLETTER NO.12

地震から1年の熊本を訪問して

1年前、まさかの最大震度7の地震が熊本を2度襲いました。地震のニュースを聞き、CWSでは早速パートナー団体である日本YMCA同盟と日本基督教団の担当者に連絡をとりました。どちらの団体もそれぞれ支部や教区の被害を心配し、すぐに熊本入りされていました。CWS Japanも被害状況のモニタリングのため、翌週には小美野事務局長が熊本入り。その後、米国やカナダのクリスチャン団体から支援金が届き、熊本YMCAの被災地での活動を支援することになりました。

その支援事業もこの3月で終了を迎えました。終了時評価モニタリングのため、3月末に熊本YMCAの支援現場を訪ねました。私が熊本を訪問した時期はちょうど各支援現場で向こう3年間の被災地復興支援のキックオフ・イベントを開催していた時でした。私は阿蘇YMCAのボランティアデーに参加し、他の参加者の皆さんと阿蘇市内に設置された5か所の仮設団地を訪問。翌週に阿蘇YMCAで開催予定されていたイベントチラシを戸別訪問して配布しました。阿蘇YMCAは、このようなイベント企画以外に、被災者宅や農家の片付けのお手伝い等、生活再建支援を自己資金も使って続けておられます。現在、最大の課題となっているのは、月日が経つとともにボランティアが激減していることです。その原因として、東日本に比べ熊本の被害は局所的だったこと、被災地の



(現在も南阿蘇に残る断層)

現状についてのメディア報道が減ったことが考えられます。また、損壊した住宅の私物の片付けを家主が終えられず、業者による解体作業が進まない話を他の支援団体から聞きました。それもあって熊本の被災地復興が遅れているらしいのです。ところが、そのような細かい手作業を家主だけで進めるのは非常に厳しく、このような作業の手助けを行うボランティア不足が現在深刻化しています。

滞在中、御船町と益城町の仮設団地も訪問しました。熊本YMCAは、地域行政から委託を受け、仮設団地内に設置された地域支え合いセンターを運営しています。これらの各センターには、相談員が配置され、巡回訪問による仮設住民の生活相談、住民の交流活動を促進するためのサロンやカフェの運営、各種イベント企画などを行っています。相談員の方々は熊本YMCAに雇用され、ソーシャルワーカーや民生員の役割を果たしておられました。

行政側は、仮設住宅を2年で撤去し、これから建設する復興支援住宅に被災者を再度転居させる計画です。そこでまた新たなコミュニティを形成することになり、今後、住民の孤立化、高齢者による孤独死、生活困窮者の問題が心配されます。関係者の話をうかがっていて、今仮設住宅で起きている問題は、被災以前から存在していたけれど、仮設に入居したからこそ、表面化した根深い社会問題なのではないかと感じました。（文：プログラムオフィサー 牧 由希子）



（益城町の仮設団地）

CWS Japan ボードメンバーに 小海 光 先生をお迎えすることになりました



小海 光 氏
（こかい ひかり）

当団体の理事への就任を小海先生に快諾いただき、僭越ながら先生のご紹介や今後の意気込みについてお聞かせいただく運びとなりました。

小海先生は合同メソジスト教会の牧師で、2012年より合同メソジスト教会宣教師として南青山に建てられました 公益財団法人ウエスレー財団 に派遣されています。

「代表理事として女性のエンパワーメント、青少年の国際的リーダーシップ育成、人道支援の3つのミッションのために働いています。CWSは合同メソジスト教会の大切なミッションパートナーです。今回CWSジャパンの理事としてその働きのために奉仕できますことは喜びであり、感謝です。よろしくお願い致します」

とのお言葉を頂戴しました。CWS Japan一同
よろしくお願い申し上げます。

Kaneko and Associates 様より コーポレート・サポーターとして ご支援いただきました

この度米国のチャーチワールドサービス（CWS）のサポーターでもあるKaneko and Associates様より、CWS Japanに対してコーポレート・サポーターとしてのご支援を頂きました。米国カリフォルニア州及び東京に拠点をもちながらグローバルに活躍されているヘッドハンティングの会社で、「たった一人のためにでも、世界を繋げたい」をスローガンにCWS Japanが取り組

む人道・防災支援へ共感して下さいました。貴重なご支援をより安心で安全な世界へと繋げられるよう、今後も更なる活動の深化・拡大を図って参ります！（文：事務局長 小美野剛）

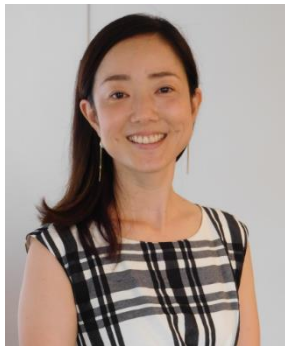
 **Kaneko + Associates**

<https://www.kanekoassociates.com/>

ADRRN東京イノベーションハブ (ATIH) が発足しました

CWS Japanは、ADRRN（アジア減災災害対応ネットワーク）において理事・事務総長としての役割を務めていますが、この度アジア20か国にメンバーを有するADRRNの戦略を更に力強く推進する為、イノベーションハブを東京に設立する事になりました！略してATIH（ADRRN Tokyo Innovation Hub、「アティ」と読みます）として、今回は活動を共にするメンバーの紹介をします。

「Through Collective Wisdom, for Transformational Impact」をスローガンとして未解決の問題へ、イノベーションの創発を通じて貢献するATIHの活動は今後とも随時お伝えしていきます！（文：事務局長 小美野剛）



ATIH 主席コーディネーター： 打田郁恵 (Ikue Uchida)

CWS Japanニュースレターをご覧の皆さま、初めまして！大学時代に国際開発の世界を志し、経営コンサルティング会社での経験を経て、開発途上国でのビジネス開発（いわゆるBoPビジネス）に関わってまいりました。

この度、NGOによるイノベーションという新しくかつ非常に重要な取組みに参加させていただけることに感謝し、今後の展開に心躍らせております。これまでの経験を活かしてCWS Japan及びその活動に関わる皆さまのお役に立てるよう精いっぱい取り組むとともに、年齢を問わず経験豊かな先輩方から学ばせていただく気持ちを忘れずに進みたいと思います。



(写真中央：松本 淳氏)

ATIH 代表：松本淳 (Jun Matsumoto)

マレーシア・インドネシアで非営利の教育事業を運営してきましたが、国内外の多くのNGO・NPOのサポートに助けられてきました。これからは「イノベーション」という観点でNGO界への恩返しをしていきたいと考えており、それが世界へのさらなる貢献へつながると信じています。

皆さまへもまたご助力をお願いすることがあるかと思えます。今後ともどうかよろしくお願い致します。



ATIH デザイナー：和嶋玲美 (Remi Wajima)

デザインの観点から国際協力や途上国の社会課題解決に取り組みたいと考え、この度ATIHに大学卒業後、インターンとして参加させていただきました。今回の参加を通して実際の現場を知り、沢山のことを吸収したいと考えています。

また、自身が学んだデザインの思考やメソッドを生かして、防災・減災における地域の課題解決のメソッド開発に貢献できるように取り組みたいです。精一杯取り組みたいです！よろしくお願いいたします！